

令和7年12月1日

保護者各位

「台湾フィールド・ワーク 2025（8日間）」における本学学生の
台湾短期研修についてのご理解のお願い

拝啓

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

私たち九州大学教育学部では、本学の国際化の計画に基づき、本プロジェクトが持つ台湾での多様なネットワークを活用しながら、「台湾フィールド・ワーク 2025」を実施することとなりました。九州大学台湾スタディーズ・プロジェクトは2017年10月に台湾の教育部（文科省に相当）と九州大学が共同で開設したもので台湾の社会、歴史、文化などを学ぶ授業をおこなっており、今年で9年目を迎えるプロジェクトです。台湾フィールド・ワークは授業での知識を元に現地で研修を行うもので2018年の3月に第一回がパイロット版として実施されたあと、これまで計5回の研修実績がございます。

今年度は3月2日（月）から9日（月）までの7泊8日、台北市、澎湖県を訪れます。澎湖では、潘安邦記念館、篤行十村、澎湖県澎湖海洋地質公園中心、澎湖南方四島國家公園などを訪問します。澎湖島は、台湾本島から飛行機で1時間ほど離れており台湾本島とは異なる生活習慣や文化を持っています。また中国大陸との距離の近さから中国と独自の交流をおこなっています。台北では台湾が現在の民主的な、そして人権を重んじる社会になるまでの歴史について学ぶため、228記念館、景美人権文化園區などを訪れます。台湾といえば、漢民族文化の印象がございますが、実際は漢民族以外にもさまざまな民族が共存する多民族国家となっています。その一旦を学生には滞在中感じ取ってもらえればと思っております。

また、その他の訪問先などの内容に関しましては添付の募集要項をご覧ください。

このフィールドワーク実施にあたりましては、本学から教員が1名、その他毎年東京大学と合同での研修をおこなっている関係から東大の教員1名と学生、金門、台北では各訪問先を現地のガイド、台湾人学生と共に行動いたします。本事業に参加する学生には学生教育研究災害障害保険の付帯海外留学保険に加入することを義務付けておりますし、保険加入並びに保護者の承諾がない場合は台湾研修には参加できないこととなっております。引率する教員も万全を期して対応する所存です。

保護者の皆様のご理解とご協力のほどお願い申し上げます。

謹白

九州大学教育学部長
田上 哲

【本件お問い合わせ先】

九州大学台湾スタディーズ・プロジェクト担当：
前原 志保